



お話をうかがった、鹿沼まちゼミ世話人会の皆さん

「やりがい」を 個店を輝かせることで

参加店舗はほとんどが一般の商店です。花屋さん、お茶屋さん、衣料品店

商店の店頭やスーパー、公共機関などにおいてある「まちゼミ」のチラシを見せたいいただきました。カラー印刷で、参加店舗がひと目でわかる地図が付いています。講座内容ごとに「健康・キレイ」はピンク、「つくる・たべる」はオレンジ、「まなぶ」はグリーンと色分けされているのも、見やすく分かりやすい作りです。チラシは新聞折り込みも行われ、鹿沼市内だけでなく周辺地域にも届いているとのこと。



鹿沼市商店会連合会
若林 実会長
(鹿沼まちゼミ世話人会代表)

化粧品店など、生活に身近な存在のお店が多いようです。また証券会社や生命保険会社、信用金庫なども参加しており、街ぐるみで盛り上がりつつある様子も伝わってきます。

回を重ねるごとに、参加店舗や講座数も増え、受講者数もどんどん増加。第1回目は268人の参加でしたが、第3回目では547人にまでなりました。

「今回も手ごたえがあります。さらに増えていることは間違いないと思います」と話す若林会長。ご自身が経営する店舗(「すいーとほーむいせも」「介護ショップいせも」)でも、もちろん実施しています。

「まちゼミは、1回の講座で3〜5人程度の少人数。時間も1時間くらいでしょうか。材料費などをいただく場合もありますが、基本は無料です。そして、共通ルールとして、受講者に商品を販売してはいけない、ということになっています。あくまでお店のイメージアップ、ファン作りが目的だからです」

販売しなくて良いということで、担当スタッフも楽しみながらやれるそうです。もちろん、教えるためには事前準備が必要ですし、教え慣れない人は緊張もするでしょうが、そういったことも楽しさの一部になっているようです。



特集1/個店の魅力活性化

お店の魅力を引き出す 商店街の取り組み

鹿沼市の先進事例「まちゼミ」訪問

近年、全国的に新しい商業活性化の取り組みが注目されています。「まちゼミ」と呼ばれるこの取り組みは、どんなものなのでしょうか。鹿沼市の中心市街地では、昨年から県内他地域にさががけて、「まちゼミ」にチャレンジしています。その様子やメリットなどを取材しました。

(協力：鹿沼商工会議所)



鹿沼市中心部で見られる「まちゼミ」の張り紙

店の特色を生かした「まちゼミ」風景

「まちゼミは、最近あちこちで行われている『地域活性化イベント』とは違います。あくまで、それぞれの店舗が、より一層ファンを増やし、輝くためのものなんです。自分のことだから、参加店舗もやる気が出るし、工夫もするんです」と若林会長は笑顔で話してくれました。

愛知県岡崎市が発祥の地

ところで「まちゼミ」を実施しているのは、実は鹿沼市だけではありません。

「得する街のゼミナール」は、もともとは愛知県岡崎市の発祥です。平成14年に、岡崎商工会議所のまちづくり担当者の提案からスタートし、徐々に規模を拡大して現在に至っています。

現在では「岡崎まちゼミの会」が運営を行っており、ホームページ(<http://machizemi.org/>)もあります。そこには「まちゼミ」について、こう書かれています。

「得する街のゼミナールを略して、まちゼミ」とは岡崎市の中心市街地の商店街のお店が講師となり、プロならではの専門的な知識や情報、コツを無料で受講者(お客さま)にお伝えする少人数制のゼミです。

お店の存在・特徴を知っていただくと共に、お店(店主やスタッフ)とお客さまのコミュニケーションの場から、信頼関係を築くことを目的とする事業です」

また、「お客様」「お店」「地域」の三方よし「活性化事業」と位置づけられており、ここからも単なるイベントではなく息の長い活動であることがわかります。

鹿沼市で「まちゼミ」に出会う

鹿沼市の中心部を歩くと、あちこちの店に「まちゼミ」と書かれた張り紙を目にします。ロゴの下に書かれているのは、どうやら何かの講座のようです。これは何でしょうか？

商店のことなら、商店会に聞くのがいちばん。そこでさっそく、鹿沼市商店会連合会の若林実会長にうかがいました。

若林会長は「それは、個々のお店でお客さまに『知って得する身近なこと』を教える、『得する街のゼミナール』のことですよ」とニコニコしながら教えてくださいました。

「得する街のゼミナール」を略して「まちゼミ」は、今年8月22日から9月30日まで、鹿沼市中心市街地の商店など47店舗が参加して実施されました。昨年1月から2月に第1回、8月から9月に第2回、今年2月から3月に第3回が開催、今回はすでに第4回目の実施ということ。

「最初は30店舗、34講座でスタートしましたが、回を重ねるごとに参加店舗数も増えていきました。1つの店舗で2つ、3つと講座を持つところもあるので、今回は47店舗56講座にまでなりました」



色鮮やかで見やすい「まちゼミ」チラシ(第4回)

岡崎市でスタートしたこの取り組みが徐々に評判を呼び、視察をして「自分の地域でも取り組みたい」と考える商店街がどんどん増加。現在では日本全国約160エリアで、活発な取り組みが行われています。栃木県でも鹿沼市と小山市で「まちゼミ」が実施されています。そういったエリアには、「岡崎まちゼミの会」が指導や協力を行っており、代表を務める松井洋一郎さんは全国を講演などで飛び回っているそうです。

商店会、商工会議所、行政が一丸となって

鹿沼市は栃木県内で最初に「まちゼミ」に取り組みました(現在は小山市でも実施)。個々の商店がなかなか元氣になれず、どうにかして活性化していきたいと考えていた商店会連合会や鹿沼商工会議所、それに行政などが知恵を出し合い、いろいろな案を模索したそうです。そして「まちゼミ」を知り、いろいろ調べたうえで「取り組んでみよう！」と決めたのが、平成25年度のこと。前述の松井さんに何度も講演していただき、中核メンバーをしっかり育て、きちんと準備を重ねたうえで、平成26年1月に第1回目をスタートさせたのです。

「ありがたいことに、鹿沼市長や鹿沼商工会議所会頭が、あちこちでさかんにPRしてくれました」と話す若林会長。もちろん、鹿沼商工会議所全体でもバックアップし、現在も大きな力になっているそうです。

「今は主催が鹿沼商工会議所と商店会連合会、それに鹿沼まちゼミ世話人会の三者で、鹿沼市が後援してくれています。将来

は世話人会で一本立ちし、活動を広げていきたいと考えています」

回を追うごとに反響が大きくなる

鹿沼市の「まちゼミ」活動の中核メンバーである「世話人会」は、商店会連合会の若林会長が代表を務めています。そこで、何人かの世話人に集まっていたとき、お話をうかがうことにしました。

集まっていたいたメンバーは4人。代表の若林さんと、(有)マーサーズの木村枝里子さん、スキップの浅野雅子さん、(有)神山園の鈴木篤子さんです。

(有)マーサーズは「フラワーヒルズ」という生花店。木村さんはそこでプランナーとして働いており、「まちゼミ」も第1回目から担当しています。

「今回は2講座を実施しています。一つはブライドフラワーを使った敬老ギフトの作り方、もう一つは「フラワーパティエになるう」というタイトルで生花を使って本物そっくりのケーキを作るフラワーアレンジメント講座です。どちらも申し込みが多くうれいですね」

木村さん自身も、もちろん講師として参加。お客さまの反応をうかがいました。

「今回がいちばん、申し込みが多かったです。下野新聞に『まちゼミ』の記事が掲載された影響もあるのかも知れませんが」

フラワーヒルズでは、今回の「まちゼミ」がスタートする2カ月前にフラワーアレンジメントの教室を開講したそうですが、その生徒さんの多くが、じつは「まちゼミ」

また一緒に作業することが仲間意識を強めていくでしょう。

勧誘の際に、すでに参加している業種は避けるなどの配慮はするのでしょうか。

「いや、気にしていません」と若林会長。

「同じ業種業態でも、講座内容は案外重ならないですよ」と浅野さん。

木村さんも「同じ商売でも、それぞれ得意分野が違ったりしますからね」とうなずきます。

確かに、チラシで講座内容を確認しても、それぞれまったく違うものばかり。お客さまからすれば、50種類以上の「学びの場」が身近に生まれていることになりそうです。



「まちゼミ」は講師も参加者も楽しそう



(有)マーサーズ
木村 枝里子さん

受講者だったそうです。

「教室以外でも、お客さまの数が増えたように感じています」とにっこり。

「まちゼミ」をきっかけに新ビジネス

つばとリンパマッサージ「スキップ」を経営している浅野さんも、第1回目からの参加者です。講座はもちろん「足のむくみを解消しよう」と題したマッサージ講座。ところがそれだけではなく、もう一つ講座を行っているそうです。

「以前から趣味で『つるし飾り』を作つて、それをお店に置いていたのですが、習いたいという方が多いので、だったら『まちゼミ』でやってみようかと思ひまして」と、ひよこの親子のつるし飾りを作る講座をスタートさせたところ、こちらも人気が出ているそうです。



スキップ
浅野雅子さん

自分のスキルの再点検にも効果が

最後に、苦勞していることをお聞きすると、皆さん顔を見合わせて考え込みました。苦勞というより、いろいろな手間が増えてもそれを楽しんでおられるようです。

「1時間、1時間半という時間を話すためには、前もって準備が必要です。でもそれが、自分のスキルの再確認にもなるんですよ」と木村さん。

「仕事をやっている、案外基礎的なことをおろそかにしてしまっていることが、あるんです。『まちゼミ』のおかげで、それを再チェックできたりします」と浅野さん。

鈴木さんも「お茶について教えるのにも、ふだんは気にしないようなことまで調べることで、自分の勉強にもなっています。謡曲も同じですね」と話します。

若林会長は「こうやって、自分を高める楽しみを実感できるのも、大きなメリットですよ」と言います。「それを実感できるからこそ、仲間意識も生まれるし、笑顔も生まれるんです」

大和屋さんで「まちゼミ」を見学

若林会長と世話人会の皆さんにお礼を言つて別れた後で、実際の講座の様子も見学したくなりました。周りをみると「まちゼミ」の掲示がある店舗があったので、さっそく入ってみました。

コーヒー豆や器などを販売している「大和屋鹿沼店」では「カフェを楽しみましょ美味い珈琲の入れ方」と題して、期間中

「手軽にかわいいひよこの親子が作れるので、楽しんでいただけるようです。皆さん本当に集中してやっておられますよ」

人気が高くなったので、ついに本格的に「つるし飾り教室」もスタートさせたという浅野さん。「まちゼミ」をきっかけに、新しいビジネスへのチャレンジも生まれました。

伝統の店に新しい息吹を生み出す

(有)神山園は、歴史のあるお茶屋さんです。鈴木篤子さんは、母親が切り盛りする店舗を手伝いながらも、もっとお店のために役立ちたいと考えていたそうです。そんな時に第1回目の「まちゼミ」が開催され、興味をひかれたと言います。説明を受けて「やってみよう」と決心した鈴木さんは、第2回目に日本茶(抹茶、煎茶)の楽しみ方についての講座を始めました。さらに第3回目からは、長年趣味でやっていた謡曲の入門講座もスタート。こちらも申し込みが増えているそうです。

「お店は長年母が切り盛りしてきましたから、私が手伝うようになった当初は、自分がどんな役割を果たせばいいか悩みました。でも『まちゼミ』に参加したことで、



(有)神山園
鈴木篤子さん



大和屋 鹿沼店
店長 佐藤真由さん

に4回の講座を実施していました。「まちゼミ」ですから、もちろん無料。1回の定員は4人でした。

店長の佐藤真由さんは、母親と2人でお店を運営しています。

「私どもではコーヒー豆を販売しています。喫茶店ではありませんが、試飲コーナーがありますので、そこを使って講座を行っています」

この日も午後4時から4人参加して講座が開かれていました。若い方、年配の方など女性4人が、佐藤さんの説明に聞き入っていました。

佐藤さんが「まちゼミ」に参加した理由は何でしょうか。

「コーヒーを淹れるのは、初心者にとってはハードルが高いと思うんです。試飲される方でも『自分で淹れたいんだけど、難しい』とか『なかなかおいしく淹れられない』というお話をされる方が多いですね。もちろん、時間があればいいに説明させていたのですが、その時間がとれないこともあります。何かいい方法はないかと考えていたところに『まちゼミ』の話をいただいたので、初回から参加させていただきました」

自分なりの店への貢献のヒントがつかめたように思えます」

いきいきとした表情で話す鈴木さん。事業承継の糸口としても「まちゼミ」は役に立っているようです。

若林会長は「参加したそれぞれの店舗で、皆さんいろいろなプラス効果を見出しておられます。また、それがあから楽しいし、続くでしょうね」とうなずきながら話してくれました。

将来は「世話人会」が主体に

ところで「鹿沼まちゼミ世話人会」の役割は何でしょうか。

若林会長は「企画作りや会議の準備など『まちゼミ』運営にかかわるさまざまなことが世話人会の仕事です」と話します。「もちろん、新しく参加する店舗の勧誘も、世話人会が積極的に行っていますよ」

チラシの作成は、現在は鹿沼商工会議所が行い、世話人会がそれに協力する形ですが、これも将来は主体を世話人会とすることが目標とのこと。

「自分たちでメリットややりがいを実感している、勧誘もやりやすい」と話す鈴木さん。木村さん、浅野さんも笑顔でうなずいていました。確かに、実感している当事者が話すのですから、言葉の重みが違います。

「チラシを折ってDMの封筒に入れるのも、世話人会の仕事です」と木村さん。浅野さんが「手分けして配布もしますよ」と付け加えます。地味な作業ですが、それを行うことで「手作り」の感覚が生まれ、

やってみると、あまりの反響の大きさにびっくりしたと言います。

「受付開始から電話が鳴りっぱなしで、母と二人で大わらわでした。30分くらいで、予定していた日程が全部埋まってしまいました。お断りするのが心苦しくて」とおっしゃる佐藤さん。問い合わせなしで直接来られたお客さまが、立って見ていた時もあるそうです。

「男性のお客さまも増えているのですが、参加しやすい時間に開けないので、申し訳なくて。今後の課題です」

「まちゼミ」以外でも、講座を開いてほしいという要望もあるそうです。

「難しくない、気軽にできると感じていただけるように、内容は工夫しています。皆さまにお話しするために、いろいろ勉強しておすことができて、自分の学びにもつながっています。またお客さまがどういったことをご存知で、どういったことを知らないかということが分かりますので、ふだんの接客にも応用して、よりよい分かります。商品説明ができるようになりました」

いきいきと話す佐藤さん。今後も「まちゼミ」でさまざまなチャレンジをされていくことでしょう。

駆け足で紹介した、鹿沼市中心街の新しい取り組み「まちゼミ」。いかがでしたか？ 当所でも、来年2月に「まちゼミ」を予定しています。詳細はお問い合わせください。



問合せ
地域振興部
☎028-637-3131